

1年次の夏休みまでに、生徒に文理選択を考えさせるにあたって

6月の学年集会、保護者会の際、それぞれ生徒向け、保護者向けに文理選択の説明をしています。こういった職業に就きたいか、そのためには大学で何を学ばなければいけないかを考えさせて文理を選択させます。

適性検査を通して客観的に自分の職業への適性を把握させる。また、得意教科ではなく、将来の職業と直結した文理選択を行うよう指導している。

高校入学前に大学進学後の学部を決めている生徒がほとんどですが、大学で学ぶ学問への意欲・関心を重視するように指導しています。就職の有利性などで学部を決めても、大学進学後の意欲が続きません。

なりたい職業から逆算して文理選択を考えられることが一番だが、それがない人は好きな教科や、大学で勉強していて楽しいと思えそうな教科から決めてはどうかとアドバイスしている。

希望する大学をもとに決めるように話しています。志望大学が決まっていない生徒にはオープンキャンパスなどに参加させ、大学に対するイメージを持たせます。

1学期から繰り返し保護者会や生徒面談、学年集会を開いて話をしています。6月に教育実習生が来たときに、学年集会で文理選択をした際に何を重視したかなど、体験談を語ってもらっています。

志望する進路と受験科目、成績などから総合的に判断するよう指導している。理数科目が苦手でもあえて理系を選ぼうとしている生徒には数学や理科の教科担任にも面談をしてもらっている。

「国語が苦手なので理系」「数学が嫌いなので文系」などと安易な選択の理由を示す生徒に特に注意します。文理選択の資料として学校の進路指導部蓄積のデータ、教員の経験、卒業生の経験談など、幅広く情報を用いています。

何になりたいか、どんなことに興味があるのか、または、これは厳しい、好きでないなど、方向性を定めていくように促す。文理選択に迷っていて、理科・数学の授業についていけない場合は理系を選択し、進路によっては文転する選択肢もある、という話だけにする。

3年次進級時、もしくは大学受験直前期に文転を考える生徒に対して

将来の職業観がどのように変化したのかを重視している。数学や理科が苦手だからという理由では、積極的に文転を勧めていない。

生徒の意向を尊重し、無理に今のコースに留めないようにしています。国公立・私立の選択コースも同様です。途中で志望が変わった場合に、生徒の負担を軽くするため、コース変更を可能にしています。

文系生に比べて文系科目の学習時間が少ないことを承知の上で文転するなら止めないが、カリキュラム上の配慮はしないので、受験に不要な理系科目も手を抜かず学習させる。むしろ、理数科目を苦手とする文系生は多いので、理系科目で得点を稼ごうと指導する。

本人の意見を尊重するが、今まで履修した科目で受験できるような大学を探すように声を掛けている。文転しても、今まで学習してきた数学は大きな武器になるので、数学の学習をやめないように指導する。

授業でカバーしきれない科目について、自分で勉強できる科目は、該当科目の先生に相談させ、参考書や問題集を紹介してもらおう。そうでない場合は、必要な科目の先生に講習などをお願いするようにしている。

個人面談を実施して、理由を詳しく聞いている。文転で受験科目でなくなった科目の授業中の態度に注意している。受験では必要ないかもしれないが、将来に必要であることを強調する。